

(8) 中国



中国地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は堅調に推移しているものの一部に弱い動きがみられる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

前回調査からの主要変更点

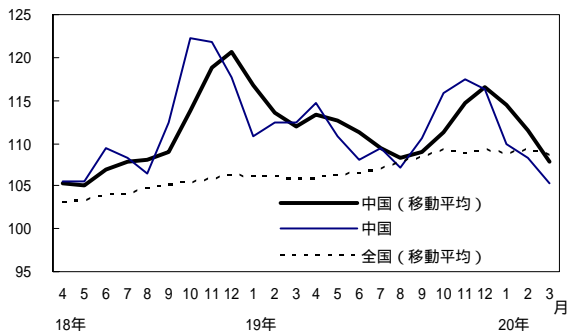
	前回（平成20年2月）	今回（平成20年5月）
景況判断	回復	回復の動きに足踏みがみられる
鉱工業生産	増加	堅調に推移しているものの一部に弱い動きがみられる
雇用情勢	改善の動きに一服感がみられる	改善の動きに足踏みがみられる

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は堅調に推移しているものの一部に弱い動きがみられる。

化学は、自動車や家電関連向けは横ばいだったが、一部の事業所での定期修理の影響等により、減少している。鉄鋼は、自動車、造船等を中心とした国内外の需要が引き続き好調だったことや、天然ガス用パイプライン向けの特殊鋼管が中東向けに伸びたことから、増加している。輸送機械は、完成車の国内向けが新型車効果により好調であり、国外は、アジア、欧州、中東向けに好調だったことから、増加している。一般機械は、シリコンウエハ切断機械が好調だったものの、半導体市況の低迷により、半導体製造装置の生産が停滞したことから、減少している。電子部品・デバイスは、携帯電話向けのアクティブ型液晶素子や水晶振動子の生産が落ち着き、半導体集積回路、固定コンデンサが不調だったことから、減少している。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
化学	17.6	1.9	2.3	1.4	0.8
鉄鋼	12.1	2.1	2.0	5.3	14.2
輸送機械	12.0	3.4	0.8	3.0	36.4
一般機械	10.4	10.8	14.7	15.1	9.1
電子部品・デバイス	7.6	39.4	33.8	21.7	-
鉱工業	100.0	6.8	7.5	2.9	1.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

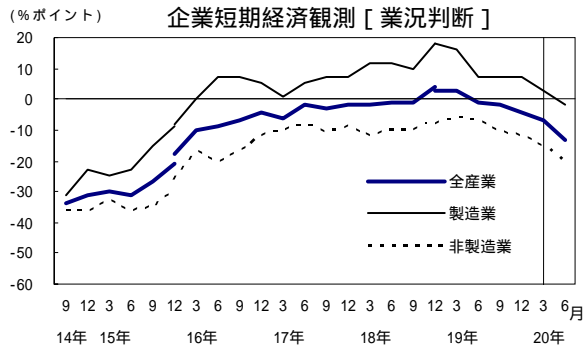
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(備考) 1. 季節調整値。中国の最新月は速報値。

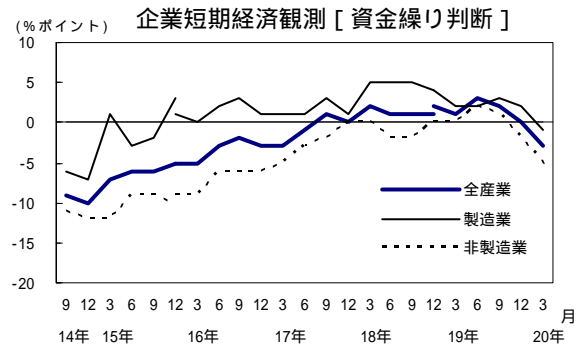
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

3. 中国は平成12年基準、全国は平成17年基準。

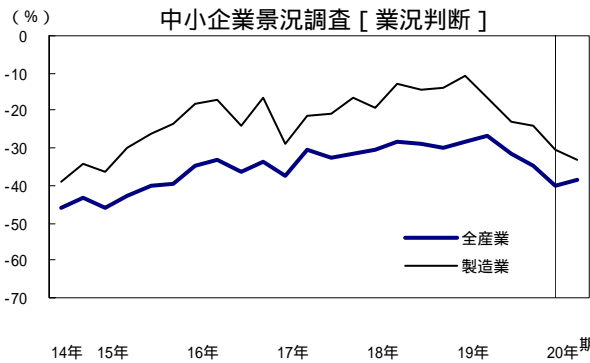
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超に転じている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

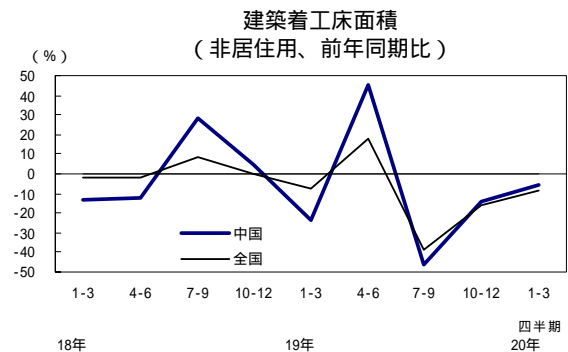
「自動車関連・携帯関連とも弱気の受注が続いており、先行きも不透明である(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 19年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績見込み	20年度見込
全産業	16.3(0.1)	8.4
製造業	15.9(1.9)	12.2
非製造業	17.0(2.8)	1.9

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

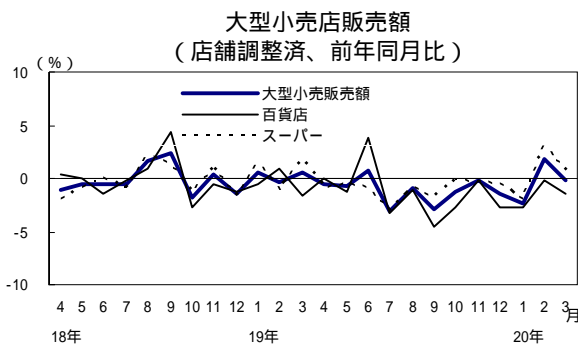
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、気温の低下から初春物衣料品の動きが鈍かったことなどから、前年を下回った。2月はうるう年効果で売上高が押し上げられ、また、食品の安全問題の発生等により、国産野菜や肉などの食材が好調だったこと等から、前年を上回った。3月は、飲食料品は伸びたが、春物衣料が月上旬の低温で苦戦し、衣料品が低調であったことから前年をわずかに下回った。なお、日本百貨店協会によると、中国地区の4月の百貨店売上高は前年同月比で2.9%減となっている。

スーパーは、1月は、身の回り品、家庭用品が振るわなかったものの、2月、3月は衣料品や飲食料品が好調だったことから、全体では2か月連続で前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

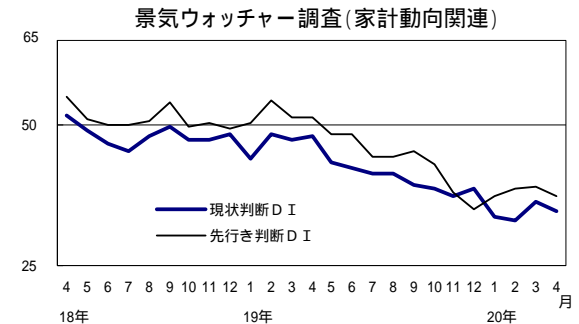
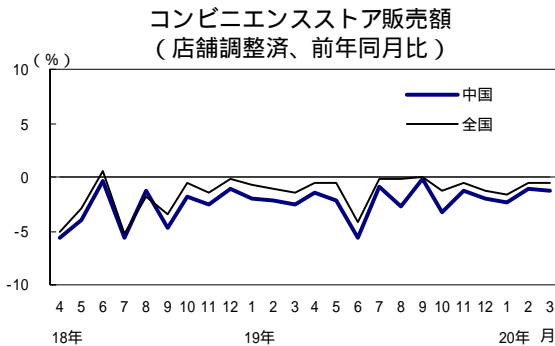
「この商品は以前いくらだったのに、何もかも高くなって」という客の声が多く聞かれ、商品の値上がりへの意識がかなり強く、買い控えにつながっている(スーパー)など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月
大型小売店	0.2	2.4	1.0	0.3
百貨店	0.9	3.0	2.0	1.6
スーパー	0.8	1.9	0.4	0.5
コンビニ	3.1	1.3	2.1	1.5
景気ウォッチャー	44.6	40.8	38.3	34.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

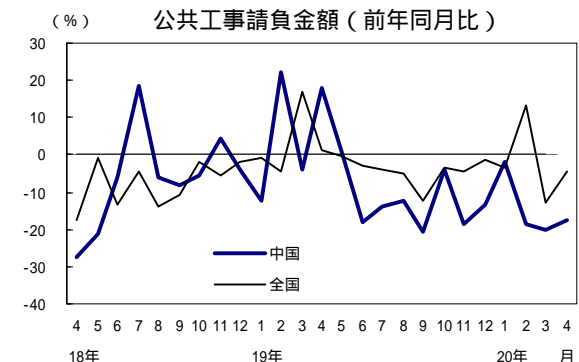
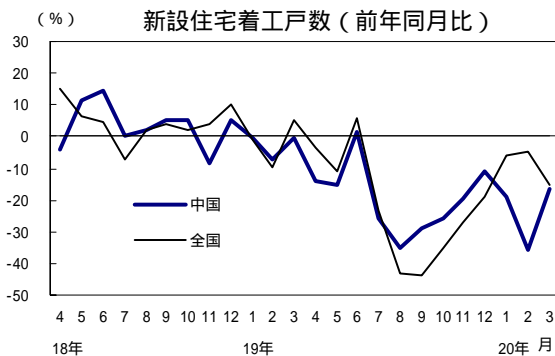
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度を下回っている。

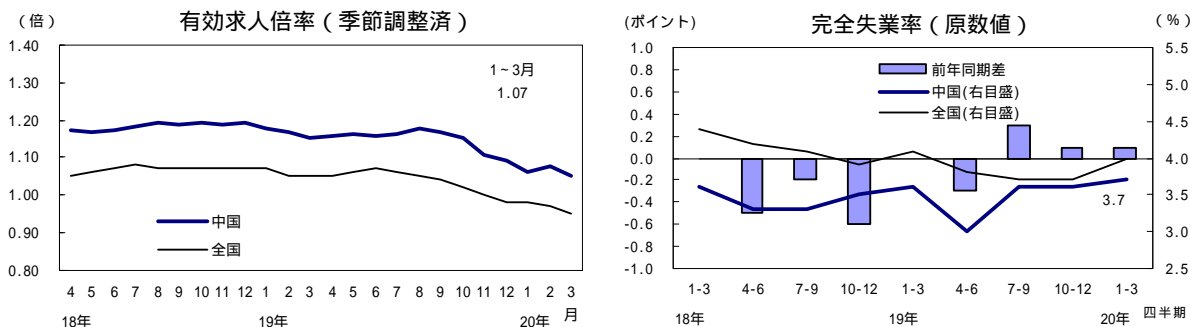


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

「正社員採用する場合、選考が厳しくなりつつある。人事サイドが設けた応募条件を満たしているにもかかわらず、現場が即戦力と認めなければ受け付けず不採用になるなど、シビアな状況になっている(民間職業紹介機関)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

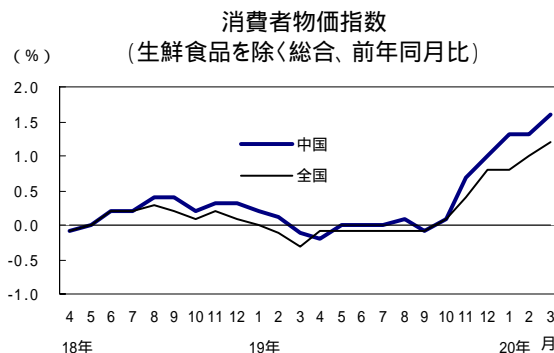
(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばいであり、負債総額が減少している。

4月に倒産件数が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年4-6月	7-9月	10-12月	20年1-3月	20年4月
倒産件数	144	144	156	161	55
(前年比)	0.7	17.7	0.0	1.9	25.0
負債総額	454	897	624	524	206
(前年比)	8.8	25.8	58.5	14.3	27.2



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・カバンの買い換えのシーズンだが、特に中学生から高校生になった女の子達が、中学生の時のカバンをそのまま使っているケースが多い(商店街)

<先行き>

- ・同業者間の話で、以前は「どこの店は忙しい」という話題があったが、最近は全くそんな話は出ず、どこの店も暇なようである。先行きが懸念される(美容室)

